



つむじ風はなぜ起こるの

上昇気流が発生して起こる

つむじ風とは、校庭や畑などで見られる、たつまきに似ている、空気のうず巻きで、木の葉や砂などを巻き上げながら、動いていくものです。

つむじ風が起こるときは、校庭などの広い地面の一部が、太陽の熱で暖められて、小さな上昇気流（上にのぼる空気の流れ）が発生します。すると、まわりから空気がふきこんで、空気がうずを巻きます。これが、つむじ風です。

つむじ風の高さは、20～30メートルぐらになります。右回りのものと、左回りのものがある、低気圧の前などの、風の強いときに起こります。

つむじ風よりも大きい、たつまき

つむじ風よりも、もっと大きくなった、空気のうず巻きに、たつまきがあります。

たつまきのうずの直径は、50～100メートルぐらいのことが多く、風の速さは、1秒間に、100メートル以上になることがあります。たつまきでふく風は、地球上でふく最も強い風だといわれています。

たつまきが起こると、空気が激しくうずを巻き、強い風がふきます。たつまきは、家をこわしたり、電車をひっくり返したり、自動車を数十メートルも、ふき飛ばしたりすることがあります。（監修・村山 貢司）

